

第 30 回 日本 CT 検診学会学術集会

参加報告

小樽掖済会病院 平野雄士

大腸 CT (CTC) 関連第二弾です。2023 年 2 月 17, 18 日に熊本城ホールで第 30 回 日本 CT 検診学会学術集会が行われました。済生会熊本病院の予防医療センター長の満崎先生が大会長となり、今回の学術大会をまとめていました。満崎先生は CTC 関連の学会の理事や役員を数多く務めている関係から、今回、CTC のシンポジウムとハンズオンセミナーが企画され、私はその両方に参加させていただきました。

今回のシンポジウムは『CTC は大腸がん検診に何をもたらすか』というテーマです。

CTC を検診、スクリーニング検査として用いている施設は近年増加の傾向にあります。しかし検診、スクリーニングにおいて、CTC の位置づけはまだ明確ではなく、便潜血陽性者の 2 次スクリーニングにはやはり内視鏡が多くの現場で選択されています。

山野先生による基調講演『内視鏡医からみた CTC への期待』では病理診断にも近づく高度に進化した内視鏡診断、AI を利用した技術や内視鏡治療を示していただきました。そのうえで大腸がんは相変わらず国内では罹患率・死亡率ともに 1 位、2 位を争う疾患であること、内視鏡と CTC 検査は相補的であり、CTC で病気を見つけ内視鏡へ誘導していくことが重要であることを示されました。

その後、『大腸がん検診に与える大腸専門技師のインパクト』として、大腸 CT 専門技師による前処置の工夫 (館林病院の岩宗先生)、腸管拡張の工夫 (南風病院の淵脇先生)、一次チェックの工夫 (山下病院の山崎先生) の報告がありました。時間がなく十分な討議はできませんでしたが、このような質の高い CTC であれば病変検索に大きな力を発揮し、内視鏡の診断、治療に向けた懸け橋になることができます。CTC による大腸がん検診を通じて「大腸がんの死亡率の低下」をもたらすためにももう少し頑張って CTC の利用を増やす必要があると感じました。

翌日は CTC ハンズオンセミナーに参加しました。出題されている

症例の難易度が高くなっていて、中々手古摺りました。自院の症例だけでなく広くいろいろな症例で訓練しないと駄目落とし穴にはまります。CTC ハンズオントレーニングはこれからも学会や研究会に合わせて開催するので、皆さんもぜひ参加して腕試しをしてみてください。読影力が上がりますよ。

さて、会場近くでは日曜日の熊本城マラソンのために大勢の人が集まりイベントを楽しんでいました。私は実際に走ることはできませんが、イベントで走った気分になったので見てください (fig.1)。実開催でいろんな土地に行くと思わぬ事に出くわします。ブラボーです。



fig.1 熊本城マラソンのイベント会場にて

大腸 CT についての活動は GICT(日本消化管 CT 技術学会) <http://gict-tec.com/> のホームページをご確認ください。無料の WEB セミナーも開催していますので、ご確認ください。